

建学の精神

社会に幅広く貢献できる人材の育成

教育理念

建学の精神に基づき、リハビリテーションチームの一翼を担う理学療法士・作業療法士として幅広い視野を持ち、社会に貢献できる人材を育成する。

そのために、「判断力・思考力を兼ね備えた専門性」「誠実な人間性」「多様な人々と協働する力」を柱とし、健全な身体と健やかな精神を基盤に人間としての基本的な態度と倫理観を高め、人に寄り添う力を養う。また、確かな専門能力を修得するため、その道を探究しようとする向学心を持ち続けることができる教育を目指す。

教育目標

「判断力・思考力を兼ね備えた専門性」「誠実な人間性」「多様な人々と協働する力」の3つの教育の柱に基づき教育目標を掲げる。

1. 理学療法士・作業療法士に必要な確かな知識・技能を身につけた人材の育成。
2. 専門能力を発揮するために挨拶、礼儀、言葉遣い、道徳、協調性などの人間として基本的な態度を養い現場で活躍することができる人材の育成。
3. 明るく、たくましい心を培い、相手の立場に立ち共感し、思いやりを持った関わりができる人材の育成。
4. 自主自学の精神の基、修得した知識・技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を育み主体的に学び続けることができる人材の育成。
5. リハビリテーションチームの一員として将来、社会で活躍するために必要な真摯な態度と謙虚な姿勢、内省力、発信力を身につけた人材の育成。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

本学院は、誠実な人間性と自ら学ぶ姿勢を身につけ、社会に幅広く貢献できる人材の育成をするために、次のような目標を達成し、所定の課程を修めた者に学位を授与する。

1. 理学療法・作業療法に必要な基礎・専門基礎知識を修得している。
2. 理学療法・作業療法に必要な専門知識・技能を修得し、実施が可能である。
3. 対象者を理解することができる真摯な態度を身につけている。
4. 関係する人々と適切なコミュニケーションをとる努力をする。
5. 必要な報告・連絡・相談を行い、他者と連携・協力する姿勢を示せる。
6. 自らの行動を振り返り、他者からの指摘を受け入れ、行動修正しようと試みる。
7. 基本的な素養（獲得された知識と理解を活用し、能力を発揮するとともに社会人基礎力を培っている）をもち自らの職業価値を意識し、社会貢献を志向している。

卒業時の学生像

誠実な人間性と自ら学ぶ姿勢を身につけた学生

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

本学院は、「判断力・思考力を兼ね備えた専門性」「誠実な人間性」「多様な人々と協働する力」を柱とし、幅広い視野を持ち、社会に貢献できる人材の育成を教育理念に掲げている。

そのような教育理念・教育目標のもと、本学院のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに示す教育を行っている。こうした教育を受けるため、次に掲げる知識・技能、目的意識・意欲等を備えた多様な学生を歓迎します。

1. リハビリテーション医療の担い手としてその知識・技能を修得する意欲がある。
2. 相手の立場に立ち共感し、思いやりをもった関わりができる。
3. 学習に対する意欲があり、高校卒業相当の基礎的学力を有している。
4. 継続して行ってきた活動（部活動、クラブ、地域活動、趣味など）やボランティア活動の経験があり、他者と協働することができる。
5. 理学療法士・作業療法士の職業理解を深めるためにオープンキャンパスや進学説明会などに参加し、理学療法士・作業療法士が働いている臨床現場の見学・職業体験説明会に参加した経験があることが望ましい。
6. ひとりの人間として良識や倫理観をもち、理学療法士・作業療法士として社会貢献する意欲がある。

入学者選抜の基本的な考え方

入学者選抜は「本学の教育理念・教育目標」や「入学者受け入れの方針」に相応しい人を、公正に判断する。

学力の他に志願者の個性や資質、学ぶ意欲等の多様な特長・能力を考慮するよう努める。

選抜方法では、学力試験・小論文・面接など複数の方法を採用することで知識・技能だけでなく、思考力・判断力・表現力・主体性・意欲などを評価する。

入学までに身につけておくと役立つこと

理学療法士・作業療法士は人を支え、人の歩みに寄り添う職業です。そのため、人々を理解し関わるができるよう、多くの人に関心をもち多様な考え方に触れる機会をもつことが必要である。

人々の健康と生活を守るためにまず、自分の健康に心がけ、一定の生活リズムを守り自律した日々を送れる生活力を身につけておくことが望ましい。

リハビリテーションチームの一員として多くの職種と協働するためにも聴く力、考える力、発信する力、振り返る力があるとよい。そのために国語力は高めておくことが重要である。理学療法士・作業療法士は生涯にわたり学習を継続することが必要であるため、自ら調べ課題を解決しようとする習慣を身につけておくことが望ましい。